

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第 15 回） 議事要録

日 時 平成 30 年 8 月 1 日（水）19：00～21：00

場 所 武蔵野市役所 111 会議室

出席者 委員 11 名、事務局 5 名

小澤（紀）委員長、大沢委員、大谷委員、上吉川委員、木村文委員、
佐久間委員、志賀委員、塩澤委員、鈴木（圭）委員、田中委員、木村浩委員

- 議事等
- 1 エコプラザ（仮称）の空間利用の考え方について
 - 2 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）について
 - 3 武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方構成（案）について
 - 4 その他

1 エコプラザ（仮称）の空間利用の考え方について

発言者	要旨
委員長	空間利用については、2 回ほどワークショップを行い、それを踏まえたまとめとなっている。まずは資料を説明していただき、その後議論したい。
委員	資料 1 の「エコプラザ（仮称）空間利用の考え方」について説明。 資料 1 は、2 回のグループワークの議論を踏まえてまとめたもの。クリーンセンターの敷地全体が「ごみ処理施設」として都市計画決定されており、エコプラザ（仮称）は「ごみ処理施設」の付帯施設であることを記載している。 1 ページの断面図を見ていただくと、新工場棟東側のコミュニティスペースから階段を上がると 2 階に見学者コースがあり、これからつくる連絡デッキと大階段へとつながる。そこを降りると芝生広場があり、エコプラザ（仮称）へとアプローチできるので、敷地全体が一体的であることが確認できる。
委員長	2 回のグループワークで出てきた意見を基に、ラフ案が作成された。この資料についてご意見をいただきたい。抜けている所やカテゴリーについて何かあるか。
委員	8 月 1 日の市報の一面を見て、クリーンセンターの話題が掲載されているのを見たが、危機感が足りなかったと感じた。ごみを捨てる時に素人目線で仕分けしているところがあるので、豊田市で見せていただいたような、こうしたごみを混入するとクリーンセンターの事故の原因になるといった話は、危機感を持ってもらう内容として良かった。 緑分野の意見で出た「市民の森」については、植木をごみにするのではなく、上手に再生させる機能があっても良いのではないかという思いがある。私も緑が好きなので、育てられなくなった植木を譲り受けることがあり、それがよくあることだと実感するようになった。
委員長	今いただいた意見は、具体的にどのプログラムにつながるかを項目として入れ込む。 この会議の前に、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（以下、

	「周辺整備協議会」という。)の方に、ここでの議論を説明したが、ごみの観点が少ないという意見が挙がった。環境テーマにはつながりがあり、それをどう読み解いて学んでいくかが重要だと思う。
委員	機能と空間利用イメージの部分まではわかりやすいが、運営主体のイメージは、今後どのようにまとめるのか。今の状態では、私たちは理解ができるが見る人によってはわかりづらい。また、こうして表にしてみると、ごみの部分が弱いと思った。今後、追加することは可能か。
委員	次回の市民会議で、最終的にまとめる。資料2で今までの議論をまとめた案を提示しているので、そこにいろいろと入れ込んでいただきたい。空間のことは後ほどご意見をいただければ、反映できるところは反映したい。資料として残す部分と、本文に書くものとはすみ分けをして、議論したことはしっかり残したい。後でご意見をいただければと思う。
委員	周辺整備協議会を通じて、ごみや資源について伝えたいことがたくさんあるとわかったので、それをもう少し表現して加えられるようにしたい。
委員	空間利用について、議論をした内容については資料にまとめるとすっきりと収まった印象がある。第12回会議のグループワークで、エコプラザを利用する層がどういう人たちかを考えると、自転車利用の方が多くはないかという話が出た。自転車置き場などは配置するのか。
委員長	敷地全体を考慮して、導線などについては別の機会に話をするのではないかと。
委員	武蔵野市は自転車利用が一番便利なので、自転車で気軽に来られるように駐輪場のスペースは確保したい。イベントを開催すると、子育て中の方が子どもを乗せた自転車で多く来られる。そうしたスペースはしっかり確保したい。
委員	武蔵野プレイスでも駐輪スペースに列ができてとても混んでいる。
委員長	敷地全体のことについて周辺整備協議会で議論をしている。土日にイベントがある時は、市役所の駐輪場も利用できるのか。
委員	旧事務所棟側の入口周辺など、自転車を多く置けるので、武蔵野プレイスのように駐輪場を待つようなことはない。
委員	プラットホームで大きなイベントを開催した時に、駐輪場を確保し、来場者をしっかり受け入れられるようにしたい。
委員長	エコマルシェ開催時も自転車利用が多い。
委員	エコマルシェ開催時は自転車を整理する人を配置している。まだ工事中のところもあるので、今はスペースが少ない。
委員	エコプラザの図面部分で「新工場棟、新管理棟、芝生広場とエコプラザ（仮称）が一体的な環境啓発のフィールドである」ということが書かれているが、新工場棟の管理者との関係性や、どのようにすみ分けし、一体利用するのかが分かりづらい。ごみの分別の話でも、エコマルシェの工場見学の際には、強調してリチウムイオン電池の話をしており、啓発していることをとても感じた。 一体的な運営について、新工場棟と機能を分けるなど、運営主体の部分の表など適切な箇所に記載があればなお良いと思った。

委員長	今のところは荏原環境プラントの事業とは分けて考えて、エコプラザを主体的に考えたい。
委員	どちらにしてもすみ分けはしなければいけない。クリーンセンターは、見学して理解する場となるが、エコプラザはもう少し勉強する場になると思う。
委員長	プラスチックなどの海洋ごみが問題となっているが、クリーンセンターでそこまで話を掘り下げて学びを提供できるかを考えると、そうした内容はエコプラザでやらなければいけないと思う。エコプラザでは学び方まで関わるようにしたい。
委員	すっきりとした形でまとめていただいた。細かい確認になるが、エコプラザ2階の市環境啓発部門の奥にストックヤードを置くのか。
委員	市の啓発部門のバックヤードにしたい。事務を実施するにあたり、道具や書類を保管する場所である。
委員	個人的に旧事務所棟の1階、2階部分の使い方に関心を持っているが、若干狭くなる印象を受けた。今後の現場の判断で柔軟に対応するものなのか。それとも、物理的に何か制約があるのか。
委員	グループワークなどでも意見が出たが、1階を中心に、できるところからスタートする方針としている。最初から広げると運営が大変になるため、まずは1階を中心に議論を進めている。
委員	情報コーナーが何をやる場所かイメージがつかない。写真を見れば、ここを利用する人たちの様子やこの資源、運営する側が伝えたいことなども伝わるが、空間は、エコカフェとつながって、フリースペースとして使えるというイメージの方が良いのではないかと。情報コーナーとして閉じた空間ではなく、誰でもふらっと入って、コーヒーを飲みながらチラシなどを見られるような場であった方が良い。
委員	写真のイメージや、図面でも点線で区切られているため、閉鎖的に見えてしまったが、情報コーナーとエコカフェの空間はつながっており、仕切りはない。
委員	名称としては「エコカフェ（情報ゾーン）」のようなイメージか。
委員	そう考えている。エコポを置く、専門書が読めたり、特別な情報を得られる、印刷ができるなどの提案が皆様からあったので、開かれた場所で情報発信ができるような機能を持たせたい。
委員長	グループワークでは、壁面の利用や、小道具などを飾りながら収納できるアイデアもあった。グループワークのまとめで出た意見が入っていない。
委員	写真などをもう少しわかりやすいものにし、誤解を招かないようにしたい。
委員	文字で書いた方が良いかもしれない。写真を使った方が良いところもあると思うが、多くの情報を写真で表現するのは難しい。
委員	スペースの見せ方については、工夫していきたい。
委員	スタディールームと運営スペースは仕切るのか。
委員	ここは構造壁が入っているため仕切られる。ただし完全に仕切るのではなく、東側の廊下として使用していた部分は壁を取りたい。
委員長	3ページ左側の「(4) 育てる」の部分で、「育む・育てる」とした方が良いのでは

	<p>ないか。育てるは一方的で、エコプラザでは学び合うという関係性を重要視しているため、「育む」という言葉が必要である。また、「環境への興味」も、教育用語だと「環境への興味、関心」となる。関心がない人に興味、関心を持たせることや、共感性を求めないといけない。2007年のESDの会議では個人が変容していくことが取り上げられていたので、環境への興味、関心を育み、育てるとした方が良い。一方的に教え込んでも共感性が出てこないの、共感を得ながら進めると、上に書いている「学び合う」という関係性とのつながりも出てくる。</p>
--	---

2 武蔵野エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）について

発言者	要旨
事務局	<p>資料2の「武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）」について説明。</p> <p>「エコプラザ（仮称）が目指すもの」に位置づけていた「ゼロウェイスト」、「コレクティブインパクト」を、「エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方」に移しているのご意見をいただきたい。</p> <p>「機能」の項目は、資料1の3ページでお示ししたとおり、「(1) 情報収集・情報伝達」、「(2) 学ぶ・学び合う」、「(3) つなぐ」、「(4) 育てる」、「(5) 支える」としている。これまで「連携・交流」と表現していたものを、「(3) つなぐ」、「(4) 育てる」、「(5) 支える」に分けている。先ほど「育てる」の前に「育む」という言葉が必要との意見があったので、修正する。</p> <p>8月13日までに個別に意見をいただき、今日いただいたご意見とあわせて反映させ、皆様に提示したい。</p>
委員長	<p>15ページにSDGsの17の目標があるが、分かりやすくしたパンフレットを委員の皆さまに配布した。こちらを開くと新しい学校の指導要領が掲載されており、小学校の低学年から高学年、そして中学生がどういう指導要領の項目が入っているかが記載されている。</p> <p>こうしたものも参考にしながら、8月13日までにご意見をいただければありがたい。</p>
委員	<p>1ページの4つのキーワードについて、バランスが気になる。3つは1文字で、「子ども・未来」が突出しているように見える。文字を揃えた方がインパクトがある。</p>
委員	<p>1文字は難しいので、キーワードを全部2文字にしてはどうか。</p>
委員	<p>同じ言い方が良い。すべてを1文字にするのは難しいと思う。</p>
委員長	<p>希望の「希」の漢字などはどうか。子どもを語るということは、私たちの希望を語るということである。</p>
委員	<p>1文字にしてサブタイトルを付けても良い。</p>
委員	<p>文字を見て伝わるようにしたい。何の意味かと考えが止まるようにはしてほしくない。</p>
委員長	<p>委員の意見を踏まえ、バランスも重視したい。他に意見はあるか。</p>
委員	<p>大きく3点意見がある。まずは空間利用の考え方について、資料1に記載されて</p>

いるとおり、クリーンセンターの敷地全体が一体的な環境啓発のフィールドであり、環境啓発を推進していくことで良いと思うが、当初から言っているように、旧クリーンセンターの跡地にエコプラザを建て、クリーンセンターと一体にあるということが重要であることを明示してもらいたい。それは、資料2冒頭の「検討の位置づけ」あたりが適切だと思うが、どこがふさわしいのか考える必要はある。クリーンセンターは武蔵野市の市民参加、環境への取り組み、ごみ減量化に向けた出発点でもあるため、旧クリーンセンターの跡地を利用してつくることに意味があり、大事な部分だと思う。

2点目として、こうして整理されればされるほど、役所らしくなって硬くなり、隙間がなくなる。大事なのは、すべての市民に環境が自分に関係あることだと認識してもらおうこと。エコプラザが自分に関係のない施設と思ってもらいたくない。たいてい行政は分野ごとに施設をつくるので、その分野に関心がない人にとっては関係のない施設となってしまう。市内の公共、公益施設にもそういった状況が多く見られる。それは重要なことで、役所が縦割りでいろいろな施設をつくると、それに関わる市民も縦割り、地域も縦割りとなってしまう。例えば、高齢者向けの施設をつくと、それに関係する市民の方々は、市役所の関係部署を見て行動するようになってしまう。本来は水平的に展開し、地域全体を見なければいけないが、地域の中も縦割り化されてしまう。また、それに関わる人材は多くないので、同じ人が重複して実施することもある。エコプラザはいろいろな人がいろいろな形で関わり、水平的に展開していくような施設でないといけない。検討のまとめの時点で市民に「私に関係ない」と思われないようにする方針や計画にするために工夫したい。いきなり環境から入るよりは、もっとハードルを下げ、市民生活のベーシックな部分で、環境に関係するかわからないが、何かもやもやとした部分に寄り添うようなところから始め、何か行動することが、そこで暮らしていくことの意義や価値を高め、それが結果的に環境への行動につながるというイメージでまず入口を設けた方が、市民に届きやすいものになると思う。

以前公共施設関連の仕事で、地域の人たちの暮らしぶりや、その地域の課題が何か、課題に対して施設が何をできるかなどを聞いた。その中で印象深かったのが、地方都市の30代のお父さんが、月に1、2回ほど東京の渋谷や恵比寿などに行っているという話。あのストリートで、子供をおしゃれに着せて、あそこでベビーカーを押している自分自身の姿に励まされ、かつこ良いと思えるからだと言っていた。環境についても、何気なくエコなことをやりながら、それが素敵、かつこいい、インスタ映えするなどの感覚が入口にあったほうが良いのではという気がした。それが伝わってくる要素があるほうが良いと思う。

もう1点、以前から挙げている意見だが、エコプラザはエコプラザだけで完結してはいけない。今日、こうしてあり方や中身の機能が整理されると、だんだんとエコプラザだけで行う印象が強くなるが、エコプラザだけで完結させずに、常に地域と連携するという考えを全面に押し出さなければいけない。環境というのは、その場その場で取り組みの成果を挙げていくものだと思うので、「地域との連携」を少し

	<p>強調したほうが良いのではないかと。後半に「つなぐ」などのキーワードが出ているので、基本的な姿勢の部分で強調してもらいたい。だからこそこのように水平展開できるような人をエコプラザの「顔」として運営責任者にすることが大切である。そこを評価できるようなことも大切で、どれだけ地域に出て成果を挙げたかなども測る必要がある。</p> <p>細かい部分だが、3ページに記載されているメタボリズムについての説明は、時代に則していない古いものだと思う。当時、世界中の都市の人口が増大する中で建築側の人間や都市計画側の人間が提唱した将来像であるため、現代的にした方が良い。新陳代謝という言葉だけでも良いのではないかと。</p>
委員長	説明は要らないのではないかと。メタボリズムには、進化する都市などの意味合いも含めている。
委員	私も今の言葉の部分でひっかかっている、細かな言葉でいうと、増大や発展、成長という言葉が過去のものになりつつある。
委員長	「進化する」などのキーワードの方が適切で良いかもしれない。
委員	メタボリズムという言葉はわかりづらい。注釈を読んでも、説明を読んでも、どういつながりがあるかがよくわからない。今挙げたような「進化する」と言った方が伝わりやすい。新陳代謝は余計わからない。
委員長	<p>教育用語の development は、内発的な力を育てる、という言葉になる。私はESDも「持続可能な発展のための教育」と表現しており、「持続可能な開発のための教育」よりもイメージしやすい。開発というと日本人はトラクターを使った開墾をイメージするので、development を教育用語的に使った方が、内発的な力を出せる。また、先ほど話した「育む」についても、新しい価値をつくり、それを磨き育てるといった視点があった方が良い。</p> <p>先ほど出たエコプラザとクリーンセンターが一体であることについては、資料1においても敷地全体がごみ処理施設として都市計画決定しているため、それを踏まえた一体的な環境啓発の言葉を、もう少し考える必要がある。</p> <p>つながりについても、資料2の5ページに記載されている「ア 取り扱う環境分野」を、もう少し記述の仕方を考えて、「エコプラザはごみと付随しながら発展させ、つながりを考えていく」というような記述にしたい。</p>
委員	なぜ旧事務所棟やプラットホームを残したいと思っているのか、なぜリニューアルするのかなどをどこかに明記した方が良い。その辺りにヒントがあると思う。ニュースレターの「エコプラザって何？」の中にも記載した内容が検討のまとめ(案)のではあまり表現されていないので、その辺をもう少し入れても良いのではないかと。
委員長	4ページの「(4) 生活との接点」を「生活・地域との接点」とすれば、低炭素モデル、地域力の向上、まちづくりともつながるのではないかと。生活だと自分の暮らしだけになるが、居住している地域によるものも大きい。武蔵野市全体ではなくても、良いのではないかと。
委員	「生活との接点」よりも、良い言葉があるかもしれない。
委員長	まちづくりとの連携という言葉があるので、「生活・地域とのつながり」でも

	良い。また文言については考えたい。事務局の意見はいかがか。
事務局	<p>資料3の5ページに青い部分とピンクの部分があるが、ピンクの部分が検討のまとめ案になく、追記する必要があると考えている項目である。最後の「4 運営上の留意点」で、「クリーンセンター敷地内の一体的な利用」などのイメージはしており、しっかり書かなければならないと思っている。</p> <p>事務局でも、役所らしく硬いと考えていたため、例えば3ページの「リノベーションのイメージ」に、おしゃれさやアートなどの記述を加えている。もう少しやわらかい形で記載できないかと考えている。</p> <p>連携については、3ページの「多様な連携、協力」に、クリーンセンターとの連携や庁内と連携しながらできる取り組みについて記載している。また、他自治体との連携などについても、これまでの議論で挙がっていたので認識している。地域という記載が欠けていたので、追記したい。</p> <p>いろいろと工夫しても、まだ硬さが残っているので、手に取って見ていただけるように、考えていきたい。</p>
委員長	いただいた意見を基に、また各委員にも考えていただきたい。資料3について説明をお願いしたい。

3 武蔵野エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方構成（案）について

発言者	要旨
事務局	<p>資料3の「武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方構成（案）」について説明。</p> <p>プラットフォームを残す理由などは「I 検討の経緯」の中で記載している。</p> <p>「V 管理運営」については、運営の考え方や必要なコスト、評価、検証のあり方、運営上の留意点について記載をする予定である。また、市の環境啓発事業とエコプラザ事業、他の部署との連携などについても庁内推進本部で情報共有を行い、関係各課へヒアリングを行う予定でいる。子ども、教育、福祉、産業振興の分野など、様々な分野とすり合わせをしていく中で、環境を切り口に連携できる部分があると思うので、そうした内容についても記載したいと考えている。</p> <p>クリーンセンターの敷地を使いながら一体的に利用することや、クリーンセンターとの事業のすみ分け、運営などについても記載したい。</p> <p>今後のスケジュールもオープンにして、これまでに実施したワークショップの資料などをつけて、市の考え方としてまとめたい。</p>
委員長	<p>資料2の参考資料について説明する。こちらは周辺整備協議会の作業部会でも出てきた意見を載せている。カタカナが多くわかりづらいので、用語集を添付してほしいという意見があった。また、ごみを出発点としてほしいという意見や、知識伝達の学びではなく、そうしたことがわかるコーディネーターやファシリテーターも必要となるという意見があった。発展的な教育でないと長続きはしない。</p> <p>それから、「知らないことを知るのは楽しい」という意見も挙がった。また、高校生も学ぶということで、原理を学ぶことの楽しさを得られる施設にしたい。先ほど</p>

	<p>の海洋ごみの内容のように、なぜ海洋ごみが問題なのかという疑問に対応できるようにしたい。屋上菜園で活動している人たちから、体験から学ぶことも大事ではないかという意見も出た。リサイクルガーデンの話も出たが、生ごみの分解から土の学習まで、つながって学ぶことも重要である。その他には運営者の力量が問われるという意見や、行政も地域もいっしょになって人材を育てるといった意見が挙がった。SDGsの達成についての意見なども挙がった。</p> <p>言い足りない部分はまた事務局に連絡してほしい。</p>
委員	資料3は基本的にこのレイアウトで進めるのか。
事務局	要点整理用に作成した資料である。
委員	<p>資料がとても見づらい。もう少し行間をとったほうが良いし、見出しや色がたくさんあり、区別がつかないため、整理をしてほしい。もちろん用語説明も入れていただきたい。</p> <p>完成までに色も整理されると思うが、整理するのであれば目次の部分から見直してほしい。手伝えることがあれば協力する。</p>
委員長	最終的にイラストまで入れるかどうかは別にして、わかりやすく整理する際には委員にもご助力いただきたい。他に意見はあるか。
委員	資料の中で運営において支配人やコーディネーターが必要で、若い人を呼んで、若い人に賑わいをつくってもらいたいという話があった。他の自治体の例を見ても、学生が運営側に入っている施設には若い人が集まる。中高年の人たちが集まる施設は、同じ年代の人たちが集まる施設になっていることが多い。最近できた行政の新しい施設は、比較的若い人を呼び込もうとしており、指定管理で施設を運営している団体も、地元の学生などを活用しているケースが多い。武蔵野市では成蹊学園を始めとした学校が付近にあるので、そうした市内の学生を巻き込みたい。場合によっては国立市のカフェのように、大学生が運営することもある。そうした形で学生を活用しても良いのではないか。
委員長	全国ユース環境活動発表大会の委員長をやっているが、高校生は独自に地域の課題に向き合い、面白い取り組みを行っている。毎年最終発表で全国から集まった数十校が発表を行うが、地域の雇用を考えるなど、地域の素材をよく考えているケースが見られ、そうした団体が大臣賞を受賞している。
委員	今は学生がまちの課題をプレゼンする機会もあり、行政に負けないような立派な発表をする時代である。ビジネスコンテストなどもあるが、そういうのが好きな学生はかなり研究をしているので、そうした方たちを施設に巻き込みたい。
委員長	<p>2014年のESD世界会議でも、これからどういうアクションプログラムをつくるかといった時に、若い人を巻き込むという話が出た。</p> <p>大学生はゼミに入ると、先生の下請け機関になってしまうので、大学1、2年生や高校生の方が地域の課題を考えている。しなやかに考えたい。</p>
委員	資料2「検討のまとめ案」は一般の人たちにも見せる資料だと思うが、9ページに「専門書、マニアックな写真集を揃える」という記載がある。マニアックという言葉はいろいろな意味で捉えられてしまうため、「いろいろな本」と記載した方が良

	い。
委員	単に写真集でも良い。
委員	変な言葉を使う必要はない。
委員長	海岸ごみで照明器具などのアートをつくるヨーガン・レール写真集である。そういうものがあると、また別のインスピレーションを引き出すことができる。
委員	わかりやすさの話が出ていたので確認をしたいが、この本編以外に概要版などは市民向けに配布されるのか。
委員長	クリーンセンターの時は、議会に報告するためにA3で3ページにまとめ、その後資料編を作成した。やはり、A3、3ページくらいで訴えないと弱いが、その際にわかりづらい言葉になってもいけない「環境にやさしい」という言葉は、概念が古いため、使わない方が良い。
委員	周辺整備協議会からも意見が挙がったように、カタカナ用語が気になる。一般市民向けとして書く時にはカタカナ用語をなくし、日本語で説明し、括弧書きで専門用語を書いても良い。用語集をつけるという考えは、まだ親切心が足りない。せいぜい8ページくらいかと思う。
委員長	参考資料のESDの冊子を作成した際は、学校の先生も忙しいので、イラスト込みでA4で8ページに収めないと読まないという意見の下で作成された。SDGsの17の目標がシールになっているため、それも議論に活用してほしいという想定であった。他に意見はあるか。
委員	資料2のエコプラザが目指すものとして、SDGsが目指すものとなっているので、ゼロウェイストは「基礎にある考え方」に書いた方が、落ち着いていて良いと思う。ただ、周辺住民にとっては、ごみの減量のためにエコプラザが必要だったので、その考え方は絶対に忘れてはいけない。 いずれはごみがゼロになる社会を目指さないといけないので、そのためにエコプラザが必要であるという位置づけは変えてはいけない。平成20年の（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会の際に、ごみ処理施設の更新時は、ここだけで更新することを前提にするのではなく、分散処理や広域処理の検討もするという話があがり、それは課題としてずっと残っている話である。その課題を背負いつつ、エコプラザの中でごみ減量化の話において今後どういう活動を展開するのは大事になると思うので、意識したい。引き続き周辺整備協議会の中でも議論して、最終的に検討のまとめの中でどのように触れるのかはもう少し吟味したい。
委員長	SDGsが入ってきたので、ごみに関する12番目の目標「つくる責任つかう責任」についても考えないといけない。市民が一生懸命リサイクルをしているが、つくる側もごみになるものをつくらないようにしないといけない。そして消費者側もリサイクルできる材料でつくられているものを購入するという視点を持つことも必要である。SDGsを目標にすると非常に深い。ただ分別するだけではなく、購入する時の視点も表しているなので、そこを1つ1つ考えないといけない。 また、プラスチックごみが海に流れた場合は海に住む生き物はどうなるかなどを考えないといけない。近年関連した悲惨な写真などもあるが、それはめぐって私た

	<p>ちの健康にも還ってくることでもある。</p> <p>つながりの視点で学び合うような、しなやかさが必要になる。SDGsの目標や、それに関連する情報を伝えられれば、賢く生きていこう、という意識につながる。</p>
委員	<p>エコプラザの中だけで完結させないという意見に関連して、2つほど意見がある。まずはこの施設は、年長の人からすると遠い。自転車で来られる人もいると思うが、高齢化が進む中で来られない人も多い。エコプラザに何人来たかということにこだわらないというのは資料中にも記載されているが、出前講座などが効果的であり、それが結果的に啓発につながるのであれば、そうした意味でエコプラザだけで完結しないということになる。場所は、エコプラザだけにこだわる必要はないと思う。</p> <p>また、気候変動の話でいうと、啓発だけでは手遅れである。世界では今、太陽光パネルの設置などの義務化や、ガソリン車、石炭火力発電など禁止の方向に進んでいる。そのくらいの急ブレーキを踏まない間に合わない問題もある。幅広い環境問題の中では啓発すれば良い問題もあるが、今この気候変動問題を解決するためには、どの手段の組み合わせが良いのかということ、市の方で適切に合理的な判断ができないと効果が出ない場合がある。こうしたことの注意が必要ということだけを、エコプラザのまとめの核となるかは別にしても、皆様と意識を共有したい。</p>
委員長	<p>エコプラザで完結させないという考え方で、市内にある施設と連携することは記載されている。その他にも、例えばごみ問題で言えば、旅行かばんの中に海洋ごみをいれて、それを開くだけでプログラムを展開することもできる。武蔵野プレイスの中などでコーナーを設けて、そこで何かを実施することもできる。ぜひそういうアイデアを出し合っていきたい。</p> <p>時間になるので、次のその他の事項について事務局より説明をお願いしたい。</p>

4 その他

発言者	要旨
事務局	<p>「資料4 武蔵野市エコプラザ（仮称）に関するアンケート調査結果」の速報版については、完成した段階で、次回8月23日の会議でご意見、ご質問をいただく形としたい。</p> <p>ニュースレターの発行についてはパブリックコメントや無作為抽出ワークショップ、ヒアリングを実施する予定なので、その周知とあわせて9月に行いたいと考えている。</p> <p>次回の会議は8月23日に行う。検討のまとめの修正案と、市の考え方の案を資料として提示したい。また、グループワーク以外の議事要旨については、発言をされた方が少ないので、対象となる方へのみ内容確認のメール連絡をする。</p>
委員	<p>ニュースレターは市民に向けたものなので、表現を簡単にして自分事として認識してもらえそうな形にしてほしい。</p>
委員長	<p>集約しようとすればするほど抽象的になってしまう。事前に委員に読んでいただくのが良い。</p>

委員	表紙で読みたくなるかどうか分かる。やさしいなと思えるほどのものをつくら ないといけない。
委員長	最近新聞でも見かけたが、大学の文学部でも数学の勉強が必要といわれている。 学校教育でもプログラミング教育なども出てきたが、論理思考さえできていればわ ざわざ教育する必要もない。 世の中の変化が激しいので、私たちはじっくりと武蔵野方式を検討し、皆様と共 有したい。